

渡邊萬次郎賞第40回 受賞者

松原 聡 会員

授賞理由



松原 聡会員は、昭和21年11月23日に生まれ、昭和44年3月に京都大学理学部を卒業後、京都大学大学院理学研究科修士課程に進学し、昭和46年3月に同修士課程を修了されました。昭和46年5月に同博士課程を退学の後、同年6月に国立科学博物館地学研究部地学第二研究室に研究官補に就任されました。昭和59年9月には東京大学から理学博士の学位を授与されました。

国立科学博物館において、昭和60年4月に主任研究官、平成7年4月に地学研究部地学第二研究室長、平成16年4月に地学研究部長と昇格し、平成21年4月からは研究調整役（地学研究部長兼務）を務め、平成23年3月31日付けで定年退職されました。定年退職後、平成23年4月1日付けで、研究上の顕著な功績により同館名誉研究員の称号を、また、同館の研究活動の推進と資料の充実ならびに展示更新、教育普及活動に永年にわたり尽力した功績により名誉館員の称号を授与されました。

研究活動においては、主にマンガン鉱床、超苦鉄質岩、ひすい輝石岩、花崗岩ペグマタイト、重金属鉱床の表層中の鉱物の研究を通じ、今まで知られている日本産新鉱物153種のうち、34種を発見・記載されました。この数字は日本人科学者では最多であり、これら新鉱物の中には日本で初めての亜セレン酸塩鉱物の宗像石や、糸魚川地域のひすい輝石を伴う変成岩からのストロンチウムを主成分とする新種である糸魚川石、新潟石、蓮華石など学術的に重要なものが含まれます。直方エリクソン石（鉄、マンガン、バリウムのケイ酸塩鉱物）の結晶構造（結晶中の規則的な原子の配列の構造）の研究では、以前から知られている4配位や6配位ではなく、ピラミッド型5配位の鉄の存在を初めて明らかにされました。また第24次南極観測隊隊員として南極に赴き、ルンドボークスヘッタなどの地質・鉱物調査を行った。こうした研究を、野外観察会や自然史講座あるいは学習支援活動、さらには一般図書などを通して普及を行われました。

国立科学博物館の地球館造営に伴う常設展示企画では、地下2階の46億年散歩道の展示の冒頭部、地球を構成する物質として、地球表層、深部に分けて鉱物と岩石の展示を手がけられました。また、ニューヨークのアメリカ自然史博物館と行なった「ダイヤモンド展」の日本側監修者として責任を果たしたほか、「鉱山文化展」、「ひすい展」、「金ゴールド展」等の特別展・企画展を監修し、最新の鉱物科学の普及に貢献したことは特筆に値します。

さらに、国立科学博物館叢書5『日本産鉱物型録』、同7『鉱物観察ガイド』を編著されまし

た。前書は明治11年に本邦の近代鉱物学の祖である和田維四郎による「本邦金石略史」、それに続く「日本鉱物誌」（神保小虎ら、大正5年）、「日本産鉱物総覧」（櫻井欽一、昭和46年）の流れをもので、昭和57年に初版が刊行された後、数年毎に改訂されたものを、2006年の国際鉱物学連合総会を神戸に招致した折に、和英記載による特別カラー版の叢書として刊行されたものです。本書では本邦で産出が確認された1139種の鉱物が掲載されています。その後、数年おきに改訂により版を重ね現在に至っています。一方、後書は、昭和44年から平成18年にかけて、国立科学博物館が主催した「鉱物・岩石・火山地質観察会」で観察会参加者に配られた解説資料をまとめたもので、その大部分が松原会員による解説で構成されています。また、『フィールド版鉱物図鑑』『鉱物カラー図鑑』『ダイヤモンドの科学』『新鉱物発見物語』『鉱物と宝石の魅力』『鉱物肉眼鑑定図鑑』などの一般向け図書は、地中深くからの何億年前の昔の地球内部での出来事が刻まれている無機質な自然物を親しみ深いものにする入門書として好評を得て来られました。

日本鉱物学会、日本岩石鉱物鉱床学会に加入し、長年にわたり評議員、各種委員会委員などとして活動されました。平成18年から日本鉱物学会会長を務められ、日本岩石鉱物鉱床学会との合同国際学術誌『Journal of Mineralogical and Petrological Sciences』誌の電子化を推進し、日本鉱物学会と日本岩石鉱物鉱床学会を統合して日本鉱物科学会の発足に尽力されました。平成21年には会長に就任され、学会活動の活性化に貢献されました。また、国際鉱物学連合の博物館委員会、新鉱物・鉱物名委員会の日本代表委員として平成7年より活動され、日本産新種の記載に励まれ、国際的な共同研究を行われました。平成13年には、日本鉱物学会賞を受賞されました。また、アメリカ鉱物学会からは鉱物学に貢献したことで、平成14年にFellowの称号を授与されました。

以上のように、研究業績並びに国際協力、教育普及活動及び学会活動における主導的役割など、その功績は博く、まことに顕著であります。鉱物科学への長年の貢献と優れた研究・教育業績ならびに普及活動への顕著な貢献に鑑み、松原聡会員へ日本鉱物科学会渡邊萬次郎賞を授与するものであります。

松原 聡 会員の略歴

昭和21年（1946年）愛知県に生まれる
昭和44年（1969年）京都大学理学部地質学鉱物学科卒業
昭和46年（1971年）京都大学大学院修士課程修了
昭和46年（1971年）京都大学大学院博士課程中退
昭和46年（1971年）国立科学博物館地学研究部に勤務
昭和59年（1984年）理学博士（東京大学）
平成7年（1995年）国立科学博物館地学第二研究室長
平成16年（2004年）国立科学博物館地学研究部長
平成21年（2009年）国立科学博物館研究調整役（地学研究部長兼任）
平成23年（2011年）国立科学博物館を定年退職
現在、国立科学博物館名誉館員及び名誉研究員

松原 聰 会員の主要論文・著書

Matsubara, S. (1985) The mineralogical implication of barium and strontium silicates. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser.

C, 11(2), 37-95.

Matsubara, S. (1980) The crystal structure of nagashimalite, $Ba_4(V^{3+},Ti)_4[(O,OH)_{12}|Cl|Si_8B_2O_{27}]$.

Mineralogical Journal,

10(3), 131-142.

Matsubara, S. and A. Kato (1980) Nagashimalite, $Ba_4(V^{3+},Ti)_4[(O,OH)_{12}|Cl|Si_8B_2O_{27}]$, a new mineral from the

Mogurazawa mine, Gumma Prefecture, Japan. Mineralogical Journal, 10(3), 122-130.

Matsubara, S. (1980) The crystal structure of orthoericssonite. Mineralogical Journal, 10(3), 107-121.

Matsubara, S. and K. Nagashima (1975) Orthoericssonite from the Hijikuzu mine, Iwate Prefecture, Japan. Min. Journ.,

7(6), 513-525.

松原 聰 (分担執筆) (2024) 最新 地学事典 1648P. 平凡社

松原 聰 (分担執筆) (2019) 鉱物・宝石の科学事典 645P. 朝倉書店

松原 聰 (2017) 鉱物肉眼鑑定事典 267P. 秀和システム

松原 聰・宮脇律郎・門馬綱一 (2016) 鉱物の博物学 465P. 秀和システム

松原 聰 (2006) ブルーバックス「ダイヤモンドの科学」 213P. 講談社

松原 聰 (2006) 岩波科学ライブラリー「新鉱物発見物語」 127P. 岩波書店

松原 聰 (2003) フィールドベスト図鑑 日本の鉱物 260P. 学研